



きょうようときょういくのままに ㊤

新学習指導要領 展示 STEAM

東京学芸大学名誉教授 篠原文陽児

元号が令和となって初めての新年、2020年。

記録に残る特別な年。新学習指導要領に基づく授業が、小学校では、これまでの先行実施を終え、4月から、中学校と高等学校は、同じく、来年と再来年に、それぞれ全面実施される年だからである。

昨年11月14日（木）は、3日間の「eラーニングアワード2019フォーラム」の中日。イベント件数は100を超える。筆者には、2日間であっても、アワード受賞者や研究あるいは実践者による興味深い講演と参加企業等の展示を、見聞きし、交流できる機会。そんなよう、東京は千代田区神田駿河台にあるビル、Sカンファレンスセンターに行く。

朝の最低気温は13度。未明からの雨が上がって、やや肌寒い。しかし、一日を通した最高気温は23度、昼過ぎから夕刻には、木枯らし1号が吹き、気温が10度前後に低下するとの予報。異常ではなくなりつつある異常な天候を体感することになるか。

朝9時過ぎ、ビルに到着。2階に上がり、受賞者パネルを左に見て受付を済ませ、展示エリアを経由し、1階のルームCへ。9時半、基調講演「『未来の教室』に向けて」の開始。経済産業省の事業内容で、担当課長補佐S氏が登壇。教育は文部科学省の所管。したがって、経済産業省は、「民間教育」あるいは「習い事」を担当するとの立場で、「子ども一人一人のワクワク感」を、「知る」と「創る」を「ぐるぐる回す」ことで実現させるねらい。つまり、「学びのSTEAM化イコール文理融合」を中心課題とする実証事業の紹介。STEAM教育を普及させるしかけの成果が期待される。10時20分終了。

引き続き、2階のHallで、特別講演。矢印どお

りに進めば、必ず展示エリアを通るような、憎いまでの設営。そこでは、担当者の話を聞いたり、展示の機器や教材を操作などしてみたりの体感。時間の無情さ。パンフレットをいただき、辞す。

11時45分、特別講演の開始。演題は「新学習指導要と子どもたちの未来」。登壇者は、Bコーポレーション教育総合研究所理事長A氏。先ず、2030年の社会を想定した中教審答申を踏まえた新学習指導要領の特徴と改訂の経緯を紹介。次いで、世界経済フォーラム2019、世界大学ランキング2020、OECDリカレント教育調査、2018年12月の米国大統領府による米国STEM教育5カ年計画、中国の産学連携による教育とAIなど、豊富な資料を使って演示。講演の結びは「人間だけが未来を考え創造することができる」。午後12時26分終了。

この2日目は、さらに午後2時15分開始の講演に参加。午後3時5分、予定通り終了。外に出ると、気温の低下は体感できるものの、予想された木枯らし1号は吹かなかった模様。毎回のこうした会のあとと同じく、大いに啓発される内容の講演等のためか、むしろだいぶ汗ばんでの帰宅。

翌11月15日（金）の3日目は、「教育分野のICT化推進に向けて」「教育 × AI、eラーニングテクノロジー」など5件の講演と展示を見聞きし体感。

昨年12月5日。政府は26兆円の新たな経済対策を閣議決定した。その目玉の一つに「小中学校にパソコンなどの端末を1人1台配備」がある。これまでの地方交付税とは異なり、使い道が絞られている補助金として交付される。

ICTの、また、ICTを使った、それぞれの教育の歴史と成果。視聴覚教育が蓄積しているノウハウの出番が、新たな年の初めに、予感されてならない。